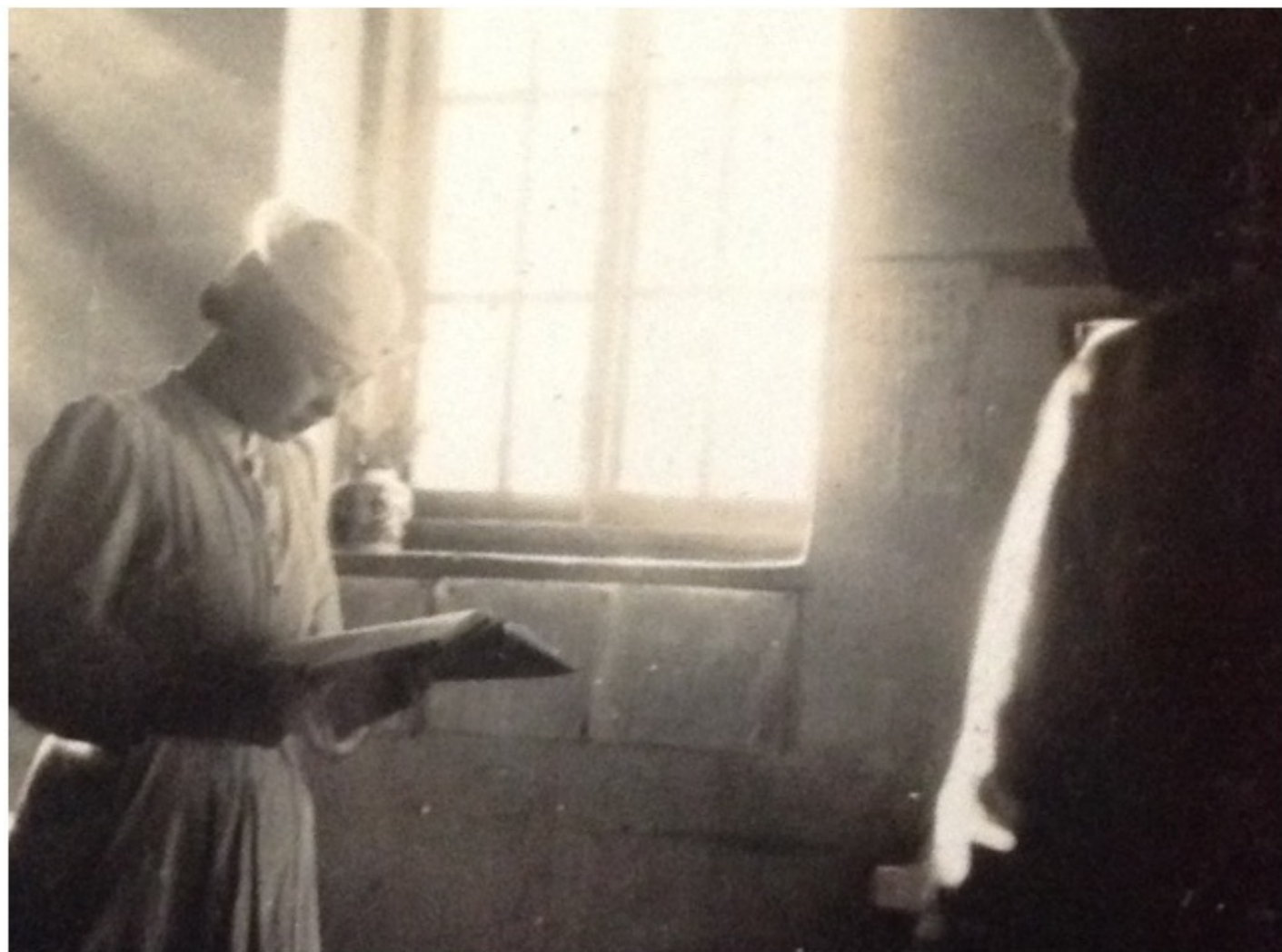


# あの日はまた



飛鳥 圭

# Prologue

---

## Prologue

はるか昔、従軍看護婦だった伯母が所有していた多くの写真のひとつである朝の陽光を受けながらの引継ぎの場面！これと同じような場면을病院に入院していた頃によく見かける情景なのだが、何故か昭和の陸軍病院での白黒写真は、切なくとも悲し気な雰囲気がある。あの昭和の時代のあまりにも悲しい出来事を思い出して胸が痛いのである。そして思い出さないでいようと、心のなかに残した言葉を選んでいるようで何故だか寂しい。

2018年8月 飛鳥 圭

# 目次

---

prologue . . . 1

目次 . . . 2

## I : 反戦の気持ち

\* 平和と明日 (あした) . . . 3

\* 戦争は . . . 4

\* 今日からは . . . 5

\* 返せ . . . 6

\* あの日の空 . . . 7

\* 平和 . . . 8

\* 平和って . . . 9

\* 平和の誓い . . . 10

\* 平和ってなあに . . . 11

\* あの日もそうだ . . . 12

. . . . .

\* 平和だよね . . . 13

\* 武器と戦争 . . . 14

\* 写真が語るもの . . . 15

\* 春を感じて . . . 16

\* ノーベル平和賞 . . . 17

\* あの日の青い空 . . . 18

\* 日本国憲法 . . . 19

\* 日本に生まれて . . . 20

\* 悪魔の足音 . . . 21

\* 平和に向けて . . . 22

## II : ああ . . . あの日は

\* 知らないほうが . . . 23

\* この日を忘れない . . . 24

\* 引揚者 . . . 25

\* 決して忘れない . . . 26

\* 真実ほど . . . 27

\* 平和のときに . . . 28

\* だまされない . . . 29

\* むかしの僕 . . . 30

- \* 8月6日の日・・・31
- \* 聞けば聞くほど・・・32
- .....
- \* ああ大変・・・33
- \* 10人いれば・・・34
- \* 技術力・・・35
- \* 平和こそ・・・36
- \* この日こそ・・・37
- \* 思い出しています・・・38
- \* 青い空・・・39
- \* 今も忘れないから・・・40
- \* 平和と書く・・・41
- \* 広島空・・・42

III： いつもの詩に！

- \* 愛しい故郷と君と・・・43
- \* 初夏の風は・・・44
- \* 相合傘・・・45
- \* 生を得て・・・46
- \* わが身果てるとも・・・47
- \* 朝もや・・・48
- \* いい夢を見て・・・49
- \* 心まで熱くって・・・50
- \* 夏の香り・・・51
- \* いつもの駅で・・・52
- .....
- \* 暑くっても・・・53
- \* このまま平和で・・・54
- \* 秋の気配・・・55
- \* 秋の風って・・・56
- \* 秋風とkissしょ・・・57
- \* 明日はよい日・・・58
- \* 秋の恋・・・59
- \* 少し怒らせちゃった・・・60
- \* 秋なのに・・・61
- \* 待つこと・・・62

Ⅳ：いい足跡だろうか

- \*足跡・・・63
- \*青春にかえて・・・64
- \*明日は水曜日・・・65
- \*手をつないで・・・66
- \*ススキと君と・・・67
- \*苦あれば薬あり・・・68
- \*少年の頃は・・・69
- \*返事がきました・・・70
- \*夕日のなかで・・・71
- \*明日はいいあした・・・72
- .....
- \*X'Masプレゼント・・・73
- \*君ありし日に・・・74
- \*君のいる世界へ・・・75
- \*懐かしいこと・・・76
- \*ファイト・・・77
- \*なつかしい響き・・・78
- \*黄昏のなかで・・・79
- \*記憶って・・・80
- \*さざんか・・・81
- \*秋の朝・・・82

Ⅴ：いい日でありますように

- \*最悪って・・・83
- \*明日という日・・・84
- \*探しもの・・・85
- \*1, 2, 3, 4っと・・・86
- \*寒いさむい・・・87
- \*北風・・・88
- \*冬の風・・・89
- \*冬の雨・・・90
- \*夢の中へ・・・91
- \*髪を束ねて・・・92
- .....
- \*春のうた・・・93
- \*春にむかって・・・94

\*あなたの瞳に僕がいる・・・95

\*野原にて・・・96

\*あなたの手・・・97

\*はじらい・・・98

\*そして明日・・・99

\*かぜの彼方へ・・・100

\*風の詩・・・101

\*風は僕からの愛・・・102

特別寄稿・・・103

(知人の戦争体験)

E p i l o g u e・・・104

## 平和と明日（あした）

---

－平和と明日（あした）－

日常的な  
世界から離れた・・・  
戦時中のシーン

その・・・  
ひとこまひとこまを  
思い出して  
明日の平和を  
守っていく・・・

それが出来るのは  
生きている私たち

何処の家庭も  
戦争のあった  
時代の写真が・・・  
少なからずあるはず

ワタクシも  
8月になると  
決まったように  
写真からそのシーンを  
見つめて・・・

平和の今だからこそ  
永遠に平和が・・・  
続きますよう  
祈るのです

# 戦争は

---

—戦争は—

国を憂い  
国を想い  
家族を愛し  
家族を守りたい

しかし  
戦争が解決は  
してくれない

あの戦争の  
忌まわしい  
出来事を

私たちは  
忘れてはなりません  
平和である  
今だからこそ

亡くなった家族の  
写真を見ると  
その写真が  
僕に訴えて  
くるのです



今日からは

---

— 今日からは —

良いことは

・ ・ 黙ってみてる

悪いことなら

・ ・ 黙ってる

悪いことを

注意するのは

勇気がいること

良いことを

褒めるのと違い

躊躇してしまう

悪いことを

注意して

皆がよいこと ・ ・

出来るように

しませんか

今日からは

悪いことは

・ ・ 迷わず

注意しようね

# 返せ

---

ー返せー

父を返せ

母を返せ

姉を返せ

妹を返せ

恋人を返せ

僕の腕を返せ

今もまだ・・・

体の全てが痛い

健康を返せ

あの悪魔の爆弾が

僕の街を

消してしまった

平和なのに

夏になると

阿鼻叫喚の

地獄絵の夢を

見てしまう

## あの日の空

---

—あの日の空—

あの日の空を  
僕たちは知らない  
知るのが怖い

キノコ雲の下には  
何があったのか  
教えてください  
何も知らない僕たちに

平和の今こそ  
あの日の空の下を  
知っていたい

僕たちに  
教えてください  
キノコ雲の下には  
何が起きたのか

今日の  
この日になると  
起きた事実を  
知りたいのです

# 平和

---

－平和－

戦争だけじゃない  
安全や自然災害もそうだ

平和利用の  
原子力発電所や  
原子力を利用する  
設備も  
平和を脅かす

自然に帰ることが  
一番だが  
そんな昔も  
戦争があった

領海権や領土など  
領土問題も  
平和を脅かす

妬みや恨み  
復讐心や貧困も  
戦争の原因になる

悲しいことに  
未だに  
紛争が続いている  
平和は永遠の  
大きな問題なんだ

## 平和って

---

ー平和ってー

空気と水と安全と  
これらは決して  
ただじゃないのに  
平和が当たり前だから  
油断もできてしまうのか

日本の平和は・・・今  
ほんとうに大丈夫か？  
70年近く経ってしまうと  
有り難さも・・・  
分からなくなってしまったのか

ひとつの政党によって  
ナチス政権のように？  
独裁政権となって  
再び戦争の道に  
進んでしまう気配がある

そんな怪しい危険な情勢に  
いろんな国がなってきた  
私たちの住む国も世界も  
戦争への危険なおいがする

日本だけは  
犠牲になった人々に  
戦争は決してしないと  
誓ったはずなのに  
その誓いが  
破られようとしている

## 平和の誓い

---

### －平和の誓い－

あなたは戦争の犠牲になった  
人たちの屍を踏みつけて  
またまた人殺しをするのか

この国のいたるところで  
死者が出たのは  
まだまだ記憶に新しいのに

過ちは繰り返しません  
反省の言葉は日本国民の  
言葉だけじゃない  
世界へむけた誓いの言葉

指導者が自ら誓う  
言葉じゃないか  
平和憲法を守ることが  
何よりの政治じゃないのか  
平和あっての幸せではないのか

## 平和ってなあに

---

ー平和ってなあにー

平和が・・・一番  
みんなが口をそろえて  
言うことばなのです

安心って、安全って  
平和と同じですよ

平和って・・・  
空気や水と同じ  
いっぱい空気を吸って  
いっぱい水を飲んで

平和あつての  
日常生活  
平和あつての  
幸せな一日なのです

## あの日もそうだ

---

—あの日もそうだ—

あの日も青空だった  
澄みきった青い空  
平和そのものなのだ

しかし  
そうばかりでもない  
破壊された町々が  
たくさんあって  
何故かじっと  
見ておれないんだ

青い空には悲しすぎて  
心はますます哀しくって  
明日の希望さえ  
消し去ってしまう

でも今はもう  
前を向いて・・・  
歩いていくしかないんだが  
その足音は  
しっかりと大地を踏みしめ  
未来を切り開く音がする

さあさあ・・・  
頑張っていこうよって  
生き残った人たちの  
声が高らかに響くんだ



## 平和だよね

---

ー平和だよねー

平和だ

平和だって

こんなに良いものなのに  
マンネリな平和してるよねって  
平和を疎かにしてると

ちょっとした心の際に  
あの頃の悲しい出来事が  
また始まるんだ

今だってそうなんだ  
用心して監視しなきゃ

つけいる隙を見せちゃダメ  
何者かが平和を脅かすんだ

## 武器と戦争

---

— 武器と戦争 —

武器って？

小さいさかいから

間違って使えば

どうなるのか

威嚇であっても

武器を持てば

何時しか使ってしまう

先に使えば

戦いになってしまうから

先に使わねばいいって

そう大丈夫・・・

いやいやそうじゃない

過去もそうだったように

小さい出来事から

紛争になり戦争になる

喧嘩と同じだ・・・

先に手を出したって？

出さなきゃやられるだろう

支配者は・・・

言葉巧みに騙しにくる

そして相手が悪いって

やむを得ない措置だったと

嘘をつくんだ

武器があると

相手に対して

抑制効果があるって

僕の背なに用心棒がいて  
後ろから睨んでるんだ  
それと同じってことだって  
核があれば大丈夫って

いやそうじゃないだろう  
何があっても  
平和が一番なんだ

## 写真が語るもの

---

－写真が語るもの－

昔の写真・・・

じーっと見ると  
話しかけてくるようだ

穏やかな顔のなかには

苦しさや・・・

理不尽な出来事が  
隠されているんだ

まともなことが

言えない時代にあって

生きてきた青春って

何だったんだろう

せめてもの救いは

やはり穏やかな

笑顔なんだ・・・

ほんとうは

平和を願っているのに

愛する人を守るために

死ななきゃいけないって

写真が語ってるんだ

平和になって良かったと

## 春を感じて

---

—春を感じて—

私の涙を受けとめてって言ったのに  
なぜ・・・何もしてくれないの  
そうでしょ・・・今も怒ってるんだから

でもいいよ  
今日から優しい心になるから  
さあ  
もう一度でいいから  
今度は私の心の声を聞いてね

きっとあなたの心にも  
春が来るから・・・  
いっぱい春を感じて下さい

ー ノーベル平和賞 ー

日本国憲法・・・  
究極の平和憲法

憲法第9条  
平和主義なのだ

今日本が・・・  
紛争国と同じ状態なら  
あなたは  
どうしますか

あなたは  
どう考えますか

平和って嫌ですか  
戦争したいですか

平和がいいって  
言ってるのに

勝手に戦争したいって  
本音をさらす・・・  
危険な政治屋がいる

## あの日の青い空

---

—あの日の青い空—

あの日の青い空  
今日の青い空と  
変わってはいないのに

あの日の空・・・  
異様な雲が立ち込め  
この地は血に染まり  
瓦礫と化した祖国がある

人はうずくまり  
動きはしない  
動いているのは  
よどんだ悪魔のような  
風だけなんだ

そんな中でも  
一輪の花が咲き  
明日へのささやかな  
希望を呼んでいる

平和って  
誰がつくるの？

一瞬で消えた町にも  
また平和がきつと来ると  
みんなが思っている  
今日の青い空のように

# 日本国憲法

---

—日本国憲法—

戦後を支えてきた憲法  
平和を守り続けた憲法  
何故変えなきゃならぬ

古き良きものじゃないか  
それだけじゃない  
新しいものに決して劣らず

決して  
押しつけられたものじゃない  
押しつけなんだった？

否定する者  
改憲しようとする者  
生きてきた過去を否定するのか  
今を否定してしまうのか

先人の死と涙で築いてきた  
平和への願いを消し去るのか  
日本国憲法・・・  
世界遺産にしなきゃ



## 日本に生まれて

---

—日本に生まれて—

同じ日本に生まれて  
何故なんだ  
いい加減にしろ  
弱い者いじめはやめろ

良い政治をしろ  
もっと他に  
やることあるだろう

公平な世の中  
皆が楽しく幸せでなきゃ  
多数決・・結構だけど  
強制された多数決もありだろう  
でもこれって  
良いことだろうか

小さい声の中に  
平和があり  
希望がある  
そして多くの夢がある

悪いことに  
多くが賛成して何になる  
もっと良い国に  
ならないとね

ひとりの不安が  
少数の不安になり  
先には多数の不安になる

## 悪魔の足音

---

－悪魔の足音－

平和で安心安全なのに  
背中から・・・  
何やら怪しい足音が  
聞こえてくる

いつもと違った  
戦争という・・・  
悪魔の足音が  
聞こえてくる

何故なんだ  
どうしてなんだ  
あの忌まわしい出来事を  
知らないのか？  
何も知らない者が  
国を危うくしてる

今日も明日も  
未だに悪魔の  
足音が聞こえるんだ

## 平和にむけて

---

—平和にむけて—

ひとりで何が出来る？

隣人たちも

友人たちも

知人、親戚も

あと一人でいいんだ

さあ輪を作ろう

そんな小さなことが

こんな小さい輪が・・・

だんだんと大きくなって

終いには

国会を・・・

いやいや

日本をとり囲みます

そして世界中をもね

もっともっと

大きな輪になって

宇宙へも

広がるといいなあ

## 知らないほうが

---

—知らないほうが—

知らない方が良かった？

知ってしまうと

ほんとに腹が立つ

こんな政治に誰がした？

選ぶ方が間違ってた

今回は必ず違う政党に

投票しなきゃあね

みんな騙されたんだよ

口先の言葉に注意しなきゃ

ほんとうに

中味が伴っていないんだから

今・・・分かったのって

任期がくるまで

何度も騙せるなあ

ほくそ笑んでるかも・・・ね

ほんとうに腹が立つ

## この日を忘れない

---

—この日を忘れない—

9. 19・・・この日を  
私たちは忘れない  
憲法が無視された日

ボタンのかけちがい  
これから  
大変なことが起きる

些細なことからも  
一步一步行動しよう  
まだまだ・・・間にあう

私たちの  
良識の声を  
しっかり届けよう

9. 19の屈辱を  
次に晴らさなければ  
この日を忘れないために

## 引揚者

---

－引揚者－

引揚できた人  
引揚できなかった人  
少しの時間の違いが  
運命の明暗に？

どちらにしろ  
家族との別れがあり  
死別があり、生き別れがあり  
地獄絵のような日々

悲しくて心が痛くなる  
あの時代のあの出来事は  
僕は知らないけれど  
何処からか耳に届いたり  
不思議に眼にも届いている

だからだから・・・  
あの日はまた・・・  
決して来てはならない  
平和が一番なのだ  
いつもそう思っている  
そして何故か涙が止まらない  
この涙・・・  
年老いたからじゃないと思う

# 決して忘れない

---

－決して忘れない－

沖縄慰霊の日

6月23日

広島平和記念日

広島原爆の日

8月6日

長崎平和記念日

長崎原爆の日

8月9日

終戦記念日

8月15日

僕は・・・ぼくは

生まれていなかったから

だから・・・だから

あの日を決して忘れない

## 真実ほど

---

ー 真実ほどー

本当のことに  
目をつむっては  
いけない

いやいや  
じっと瞳をひらいて  
真実を見なきゃ

そして  
心の中の精いっぱい  
声を聞くん

そしたらね  
いつもの  
ふつうのことが・・・  
その日の日常茶飯事が  
一番・・・  
大切なんだって



## 平和のときに

---

—平和のときに—

平和のときに  
平和のままで  
平和を守る大切さ

平和は  
ものを言わないけれど  
平和って  
誰が見ても分かる

平和が崩れるとき  
平和のためにと言う  
平和のために  
憲法を変えると言う

平和がなくなるとき  
国民の安全安心を守ると言う  
海外自衛権として  
武器を持つと言う  
これに賛成したとき  
平和がなくなる

平和の今だからこそ  
平和の鐘を鳴らそう  
日本中に高らかに  
みんなで・・・  
平和の鐘を鳴らそう

だまされない

---

—だまされない—

私たちは騙されない

その心の中を

一生懸命に探って

ウソを見抜くんだ

私たちは騙されない

安心安全が一番と言いながら

よからぬ事を数の力でやってきた

怪しくって恐ろしい集団が

日本には存在してるんだ

そのうちに

自由にものを言えなくなる

都合の悪いことは隠してしまう

知ろうとすれば

あらゆる手を使って潰しにくる

過去を知れば・・・

誰でもそのことが分かるんだ

だまされない

決して騙されない

私たちはこんな時代と言って

決してあきらめないから

## むかしの僕

---

—むかしの僕—

ほんとうのこと言っているの  
本当のことを言うと  
お前なあ共産党か？  
アカって言われるぞ

まともで理屈がおとると  
お前なあ左翼か？  
労働組合作るって？  
止めといたほうがいいぞ  
会社首になるぞ気をつけないと

九州出身の左翼かかった友人から  
注意しろよ君も  
僕は刑事につけられてるんだ  
誰が聞いているか分からんぞ  
信じられへんけどほんとなのやから

何か悪いことしたのと違うか  
この時代そんなことないやろ？  
僕の青春時代のはじまりは  
こんな状態だった

少しは住みやすくなっただけだが  
戦後20年ぐらいたっても  
まだこんなことやってんのか  
戦時中のようなよな？

そう思ったのだが・・・  
今はなつかしい  
左向け左っていわないよ  
すこし左よりの  
むかしの僕なのである

## 8月6日の日に

---

－ 8月6日の日に－

あの日に何があった  
生まれていないから  
僕は知らない・・・  
生まれていても  
知らない人がいる

僕の前で・・・  
同じことが起きたら  
どうなのだろう  
そう思うだけで  
あの阿鼻叫喚の出来事を  
じっと見ておれないだろう

僕がその場に出くわしたら  
カメラをむけていただろうか  
溢れる涙で前が見えなくなっても  
シャッターを切っただろうか

当時の写真がある  
勇気のいることだと  
いつも感謝の気持ちで  
じっと見つめている

涙で写真が見えなくなる  
でもぬぐってもぬぐっても  
出てくる涙の間から  
僕は写真を見ている  
あの日を知るために

## 聞けば聞くほど

---

ー聞けば聞くほどー

こんな事があった  
あんな事があった  
ほんまかいな  
ほんとうです  
大変な出来事です

今の若い人には  
信じられないことばかり  
決して嘘じゃありません

嘘を言うのは  
現政権の政治家です  
今の政府です  
そうなのです  
騙されてはいけない

国民のためには  
嘘の始まりです

駆けつけ警護？  
人を殺します  
そして殺されます  
決して決して！！  
戦いには正義なんてありません

理由は何にしろ  
武器を使っては駄目なんです  
皆んな分かってるのです  
だから止めさせなきゃ

## ああ大変

---

—ああ大変—

ああ大変・・・

こんなことぐらいじゃない  
もっともっと大変なことなのだ

政治が国を滅ぼしてしまう  
こんな法案を作るなんて  
ああー日本も終わりか

よからぬ政治家が多すぎて  
拙い政治で・・・  
支給される年金にも  
影響が出るって？  
としより虐めはやめてほしい

虐めのない・・・人の和  
人の心に響く政治をと  
願っているのに  
悲しい政治だけは  
ごめんだからね・・・

## 10人いれば

---

－10人いれば－

10人いれば10人とも  
同じことを言う  
これって何故かおかしい

一人でも違った意見が  
あるものなのだ  
全会一致・・・何故なんだ

強制が伴う全会一致  
ここで違ったことを言えば  
何をされるか怖い  
ほんとうはそうなのである

平和って・・・  
いろんな意見が飛び交い  
良いものにまとめられて  
皆のためになる

死を持って抗議できれば  
ついついそう思ってしまう

そんなことで覆るはずが無い  
生きて皆で力をあわせる  
平和を守るって・・・  
そういうことなんだ

## 技術力

---

ー技術力ー

日本の誇りなのだが  
過去の過ちを  
今になって思うと  
何故、平和に使わなかった

教育研究の軍事技術転用  
しっかり注視しないと  
今も兵器産業がある  
戦争の道だけは避けよう

防衛と言ってしまうと  
それまでかも知れないが  
作るも作らせないのも  
私たち次第なのかな

そのために選挙がある  
しっかりと確かな政治へ  
心を込めて投票しなきゃ



## 平和こそ

---

－平和こそ－

山があります  
川があります  
海があります  
空があります

美しき緑なす故郷（ふるさと）  
美しき緑なす日本（にっぽん）

父がいます  
母がいます  
妻がいます  
子らがいます

光りさす故郷  
光りさす日本

友がいます  
恋人がいます  
先生がいます  
大切な人がいます

永久（とこしえ）に  
光りさす平和の日本  
競い咲く花が香る日本

ああ平和とともに  
とこしえの幸せあふるる  
私たちの国にっぽん

平和こそが一番  
今もなお・・・  
平和であることの願い  
永久の平和を

私たちは希求しているのです

この日こそ

---

—この日こそ—

この日こそ  
いつも思っている  
この日こそ

でも心に決めて  
この日こそと  
思っているのに

何故か  
この日こそと  
思うこの日が  
そうならないのだ

どうしても  
思い通りにならない

不思議なことなのだが  
いつも心に決めていると  
悪魔によって  
間違った方向に進んでいる

この日こそ  
今日も・・・  
この日こそと思っている

悪魔って誰なんだ  
分かっているのに  
悪魔の仕業って  
皆知っているのに

みんなが手を握りあって  
進んで行かなきゃ  
この日こそを

実現するために

## 思い出しています

---

－思い出しています－

あの時代を  
あの忌まわしい時代を  
生き抜いてきた人々

負の歴史の中にも  
小さな幸せがあり  
家族の団欒があった

愛する人を想い  
恋する人を想い

ふるさとの山があり  
川があります  
海があります  
空があります

美しき故郷  
美しき日本

父がいます  
母がいます  
妻がいます  
子らがいます

とこしえに・・・  
光りさす平和のふるさと  
花香るふるさと日本  
いついつまでも  
つづきますように

## 青い空

---

— 青い空 —

雲ひとつない青い空  
不思議な事なのだが  
ふっとあの日を  
思い出すのだ

あの日は私は知らないのに  
何故なのだろうか？  
亡くなられた方々の  
願いなのだろうか

知らないはずなのに  
あの日の光景が  
次から次と映し出されるのだ

もうやめてください  
叫んでも叫んでも  
阿鼻叫喚の地獄絵が  
繰り出される

あれから72年  
平和の今・・・  
私たちは・・・  
何をしなきゃいけないのか  
今日の青い空  
大切にしなきゃと思うのだ

## 今も忘れないから

---

—今も忘れないから—

身体に残る傷跡（きずあと）  
心への傷跡（きずあと）・・・

それなのに今もなお  
あの日のね  
悪魔がやってきて  
ずーと病巣が住んでいるんだ

死ぬまでずーと住むという  
もういやだいやだと  
大きな声で叫んでも  
どうにもならない

これからは・・・  
これ以上の不幸が  
きつとなくなるために

明日のために  
遅くはない・・・  
平和を守るために  
大きな声をあげよう

## 平和と書く

---

－平和と書く－

平和・へいわ・ヘイワ  
絶対に平和なのだ  
戦争のない世界・・・

過去の記録があるのに  
何故繰り返そうとするのだろう  
国を守ると言って  
守られたためしがない

平和の名の下に  
正義の名の下に  
出征して行った  
多くの命が失われた

銃剣を構えて  
立哨する兵士  
日本の国内なのに

この銃剣は・・・  
そうなんだ  
国民に向けられている  
僕はそう思っている  
武器を手にとると  
人は変わってしまう  
何かあればと・・・  
怖いと思うと  
使ってみたくなるんだ

核もそうだ  
無ければ威嚇も出来ない  
持つと使いたくなる  
それが広島と長崎  
そして自慢するように



見せびらかすのだ

歴史は繰り返す

多くの眼で監視して

核廃絶をしなければならない

阿鼻叫喚の地獄絵から

学ばなければならない

多くの人々が何故か

知らないのだからね

## 広島の空

---

— 広島の空 —

8月6日・・・

広島の空に

何があったのか

その日も今日と変わらない

暑い朝だったという

午前8時15分・・・。

多く人たちの頭上に原子爆弾が炸裂する

一瞬で多くの方が亡くなった

非情で愚かな核兵器

ずる賢い人間に与えてしまった

神が悪いのか

人間じゃない人間が核を使った

人は8月9日も知らないという

長崎にも原子爆弾が落とされた

ほんとうに我がことのように

心を痛めている人たちがいる

知らない人が多くいるなら

教えてあげなきゃ

教育のなかでしっかりとね

広島、長崎の空をみて

何故か思い出すのである

## 愛しい故郷と君と

---

野に咲く花はどこへいった♪・・・「花はどこへ  
いった」ではありませんが・・・誰の眼にもふれず  
・・・消えてしまう雑草の花にも命が・・・可憐な花  
・・・ああ～皆の眼に触れさせてあげたい。  
花も・・・人の世と同じような運命があるのですね！

－愛しき故郷と君と－

嗚呼～山々の緑よ・・・  
懐かしき故郷の息吹きよ  
振り向けば幼き頃の  
懐かしい人々の顔が・・・

その中に愛しい  
女性の姿が・・・  
手を振りながら  
笑顔で出迎えてくれる

互いに抱き合い・・・  
元気ですかと

胸の鼓動が  
今までの淋しさを伝えて・・・  
二人して涙するのです

嗚呼～愛しき故郷よ  
嗚呼～愛しい女性よ  
僕はまた帰って来ました  
愛する女性の待つ故郷に

## 初夏の風は

---

—初夏の風は—

初夏の風は・・・  
大人になった風のように  
新緑の香りを運んでくれる  
緑は爽やか・・・

風が心地よく  
僕の身体を包んでくれる  
愛しい女性と  
戯れているようです

初夏の風は  
僕を恋へと誘って  
愛しい女性が待つ  
いつもの場所に  
連れて行って  
くれるのですよ

ああ～愛しき養女よ  
僕の愛を受けておくれ

## 相合傘

---

最近は雨が降らなくても日傘を利用している方が増えてきました。

この時期・・・傘はやはり・・・男性の眼からすれば華やかで色とりどりの傘がいいに決まっています。鬱陶しい時期・・・華やいだ色は楽しい気分させてくれます。

女性のみなさん・・・ビニール傘は遠慮願いたいものです（笑い）

さてさて・・・

明るい色の傘を差していると顔まで明るく映えて一際きれいになっちゃいますよ・・・！！

傘のない男性がいらして・・・

タイプの男性でしたら相合傘をすすめてくださいね？素敵な恋が芽生えるかもデス。

また、反対に傘のない女性がいらして雨宿りしていたら傘を貸してあげて下さいね！

雨に濡れて歩いている面識のある女性がいたらなおさらです。

男はいいけど女性の場合は身体を濡らしてはいけませんよ・・・

（キザだよ！・・・死語？・・・最近使っている様子がないようですが）

さりげなく・・・傘をさしだし・・・使って？

ああ～映画のシーンみたいですよ（汗）

さてさて・・・試作をしなくちゃ・・・

夢でなければこんな詩は書けませんよね

・・・ほんと（笑い）

－相合傘－

梅雨のこの時期・・・

相合傘っていいなあ

強く降ってこようなら

肩を寄せ合って

相合傘が様になる

明日はあの娘と  
憧れの相合傘  
女性に合わせて  
歩くテンポもゆっくりと  
静かな時の流れ・・・

耳元とで好きだよ！  
雨音とミックスして  
甘いソフトな声に・・・  
ああ～素敵なひと時  
このまま時間が  
止まってほしい

## 生を得て

---

一生を得て

生んでくれた両親に  
感謝してるだろうか  
器量良く生まれて  
こなかったことに腹を立て  
自暴自棄になっていないか

顔だけでなく・・・  
心まで  
醜い姿になっていないか

心豊かであれば・・・  
外見も魅力的に  
なってくるって知っていたか

魅力や本当の美しさって  
人間を磨けば  
可能なんだってこと  
知っているか  
僕は今になって知った

本当に！生を得て・・・  
生きていて良かった  
・・・と思うのは  
また・・・  
シアワセであったか  
どうかは・・・  
死ぬときになって  
初めてわかるってことを

死んでしまえば  
みんな同じ

生を得ている今を

精いっぱい生きる  
このことが大切と  
思うのです



## わが身果てるとも

---

－わが身果てるとも－

我が身は果てるとも  
魂は生きて・・・  
あなたの心の中で・・・  
脈々としているのです

嗚呼・・・我が魂は  
あなたの中で  
永遠に生きて  
あなたを見守って  
いることでしょう

私が亡くなっても  
悲しむことはない  
明日がありさえすれば  
あなたの心の中に  
私がいるのです

さあ～どうしました・・・  
明日は必ずやってきますよ  
今日のことを精一杯しましょ  
明日は・・・  
きっといいことがありますよ

## 朝もや

---

日中は暑いですが・・・陽が落ちてしまうといい  
風がきます。

特に朝なんかは・・・このまま寝ていたい雰囲気  
なんです。

少し開けた窓からは小鳥のさえずりが・・・聞こえ  
・・・とりわけ鶯の鳴き声がいい感じです。

近くで鳴いているんです。

雨上がりの早朝は・・・もやがかかり・・・いつもの  
景色も神秘的なベールで包まれてしまう・・・

ああ～いい夢を見れそうな感じです（笑）

－朝もや－

梅雨時の今頃になると

雨上がりの朝は・・・

辺り一面がもやに包まれる

いつか君と歩いた野辺にも

朝もやがかかって

やけに静かな

時の流れがあった

隣の君の息遣いが

怪しく乱れ自然の流れで

互いにkissをしてしまった

ああ～こんな朝は

決まって心がときめき

二人して押し黙ってしまう

愛の始まるときは

このようなプロセスからか

何も話さず・・・

愛し合うことに熱中することなく

二人の愛がいつまでも続ことを  
祈っているのです

## いい夢をみて

---

—いい夢をみて—

こうも毎日・・・  
真夏日にもなると  
寝苦しくって  
夢も重い夢になって  
体調もおかしくなります

窓を開け放って  
自然の涼をとると  
頭のところもすうっとして  
いい感じ・・・

弱風の扇風機の風も  
そよぐ感じで  
ますますいい夢を見そうな  
雰囲気になってきます

今日はどんな夢に？  
ああ～いい夢がみたい  
そうそう・・・  
念じることでいい夢が  
見れそうですよ

好きな娘と・・・  
甘い語らいもできたし  
歩いてきた景色も  
何故かわくわくしたし

念じることで  
想いをつなぐ  
夢が見れそうですよ  
今日は・・・特別な日  
いい夢をみましょ

## 心まで熱くって

---

—心まで熱くって—

暑い季節

心まで熱くなって

さあさあ

火照った体は

水浴びでもして冷まそ

心は熱いままに

しておこうね

好きな君だから

想いが

冷めないようにね

## 夏の香り

---

－夏の香り－

汗ばむ季節・・・  
服装も薄手の物となり  
風になびく様は  
風鈴がそよいでいるよう

音は出ないが  
涼感は十分・・・  
また・・・女性の美しさが  
際立つ季節です

扇風機やエアコンに付けた  
リボンが揺れてるのと同じ  
眼にも涼しさが  
・・・伝わってきます

この季節・・・  
若葉が鮮やかで眩しい  
そして若葉の香りが  
心地よいのです

## いつもの駅で

---

—いつもの駅で—

いつもの駅で

いつも会う君・・・

長い髪を風になびかせて

颯爽と僕の前を

通り過ぎて行きます

そして・・・

残していくもの・・・

可愛い笑顔と

風呂上りの

石鹸のような

ほのかなやさしい香り

いつもの駅の

なごやかな一日

おはよう・・・

いつもお早いんですね

今日も素敵な笑顔を

僕に返してくれるのです

## 暑くっても

---

さてさて・・・暑い日が続きますが・・・皆さんも  
お変わりなくお元気ですか？

K（圭）さんも元気で・・・お歳なんだから・・・水分を  
たくさんとって熱中症などに注意して下さいよ？

やれやれ労わりのお言葉・・・ありがとうございます  
ます。（笑）

そうそう・・・みなさん！暑くっても・・・好きな人  
には会いたいですよね？

「恋は百薬の長」・・・って言わないですよね！  
好きな人に会えると思うだけで夏ばて気味の身体も  
元気になるのです。

ー暑くってもー

暑くっても愛しい君に  
会えばもっと熱くなって  
本当の暑さになってしまう

ハートの熱さで  
もっともっと暑くなる  
この季節・・・

あなたも  
私も・・・  
好きな人に会って  
・・・愛し合って  
夏を乗りきりましょ



## このまま平和で

---

— このまま平和で —

夏が来れば思い出します  
あの地獄の様を  
死体の上を歩かなければ  
あなたの元へはいけないのです

あなたが生きているという  
保障もないのに  
あなたを探しに  
亡くなった人々の上を  
歩いているのです

あなたの声が・・・  
遠くから聞こえてきます  
ああ～生きていたんだね

涙でびしょびしょの顔  
あなたの顔も  
喜びの顔でびっしょり

生きていてよかった  
でも足もとの人の上では  
嬉しいことよりも  
悲しいことの方が  
大きいのです

これからは戦争のない  
平和な国でなくては・・・  
犠牲者があっての  
・・・私達なのですから

## 秋の気配

---

－秋の気配－

火照った身体が  
敏感に反応する・・・

暑さにバテ気味・・・  
冷やりとした風に触れると  
なぜか嬉しくなってきます

大好きな女性を  
抱きしめたような  
心躍る・・・秋の風

ああ～  
秋の似合う君って  
素敵で・・・大好き

夏の薄着の装いは  
魅力的・・・でドキドキする  
でも秋の装いは  
大人の女性の  
香りがするのです

## 秋の風って

---

—秋の風って—

残暑で汗ばむ日に  
木陰に入ると  
秋の風が  
迎えてくれる

暑いなかでの  
・・火照った体を  
心地よい風が  
癒してくれるのです

バックから  
ドリンクを取り出し  
一息つきます  
木々のざわめきと  
樹木の香り

小鳥のさえずり  
ああ～  
瞳を閉じると・・  
大好きな女性と  
語り合ってる様です

## 秋風とk i s sしよ

---

ー秋風とk i s sしよー

大好きな人から・・・  
インフルになれば大変  
K i s sはお預けね？

なんてことにならないよう  
予防はしっかりしましょ  
うがいと済めば  
すぐK i s sしたりして

こんなときは  
爽やかな秋の風と  
涼しいK i s sをしましょ

秋風とのK i s sは  
初恋の香りがして

若かったあの頃に  
僕をもどして  
くれるのです

## 明日はよい日

---

ー明日はよい日ー

今日は駄目でも  
思い悩むな  
明日は明日が  
決めてくれます

明日はいい日です  
明日はいいことが  
あります

前向きな気持ちが  
前を進む心が  
明日を幸せに  
してくれます

## 秋の恋

---

澄み切った青空・・・  
こんな日が毎日あってもいい  
残暑は続くものの・・・日差しを避けると  
心地よい風が・・・  
火照った身体を癒し  
心まで清々しくなってきます。

投稿記事の更新をしないでいると  
圭さん亡くなっちゃったのかしら  
もう・・・癖のある独特な詩がなくなっちゃう  
んですね等等・・・いろんな方々からコメント  
をいただいたりして・・・もう大変（笑）  
そんな訳で拙い詩ですが掲載しますね！

－秋の恋－

秋の恋は・・・  
何故か切なくて  
妙に人恋しく  
あなたの温もりに  
身体を預けたいもの

ああ～  
傍には・・・  
素敵な君がいる

そっと抱き寄せると  
甘い秋の香りがして  
そして・・・  
つぶらな瞳を  
閉じるのです

## 少し怒らせちゃった

---

—少し怒らせちゃった—

不愉快にするのと  
怒らすのと  
気持ちまで傷つけるのと

どちらも良くないこと  
これからは・・・  
冗談もほどほどに

聖人君子・・・  
まではいかなくても  
いつもの自分で  
相手の気持ちになって

これからも・・・  
仲良くして下さい  
大好きな女性だから

## 秋なのに

---

—秋なのに—

秋なのに・・・夏の装い！  
秋はいつもは華やかなのに  
そして・・・よそよそしい装いが  
似合う季節！

早く・・・秋らしい季節に  
なってほしいと  
女性たちの声が  
聞こえてきます

デニムのミニスカートに  
黒のハイソックス  
合成皮革の黒のブルゾン

少しはしゃいでも  
汗ばむこともない  
・・・本当の秋の季節

好きな彼氏と腕を組み  
黄昏が漂う街に  
出掛けて行くのです



## 待つこと

---

ー待つことー

十五夜に君を待つ・・・  
まだ来ない  
大丈夫なんだろうか  
場所が違ってるとでは

携帯のメールも来ない  
どうしたんだろう  
ますます心配に  
事故ってるんじゃ

メールの着信音・・・  
電車に乗り損なっちゃった  
ああ・・・よかった  
もう大丈夫  
・・・待っててよかった

## 足跡

---

旅立つ前にひとつだけ  
この地で残しておきたいことを  
しておきなさい  
たったひとつだけ  
何を残しておくのか  
考えても何も分からない

突然・・・扉が開かれ  
光が放たれた  
僕はふっと叫びます  
・・・教えて下さい

すると叫び声の響きが  
心の中に入ってきて  
雑念を追い払い・・・  
これからの進むべき道を  
示してくれたのです。

— 足跡 —

心に残る・・・  
足跡のような言葉  
足跡・・・そうなのです  
足跡？  
それは・・・  
あなたの思いやり  
心に残る言葉

そうなのです  
心に残る言葉を  
足跡として  
残しておくのです

## 青春にかえって

---

—青春にかえって—

秋晴れのコスモスが  
秋の風にそよいで  
二人をむかえてくれる

コスモス畑は  
恋色に染まって  
気持ちは何故か恋人気分

花の香りが漂って  
二人をやさしく包み  
自然と手と手がふれあう

コスモス畑は  
恋のキューピット・・・

恥じらいのなかでも  
あたたかく  
二人を見守って  
くれるのです

## 明日は水曜日

---

—明日は水曜日—

いつもの水曜日  
大好きなあなたに  
会えるのですね

明るい部屋で  
君のひとつひとつの  
可愛いしぐさ  
君のすべてが好き

こんなことって  
生まれて初めて

世界で君が  
いちばん好きで  
今本当に  
幸せにしたいと  
思っているのです

## 手をつないで

---

—手をつないで—

大好きな人と  
初めて手をつないだ  
感激で・・・  
感情も高ぶって

あったかくって  
やさしく包んでくれる  
握った手が  
少し汗ばんで

それは・・・  
僕の感激の涙

このまますーっと  
一緒に・・・  
手をつないでいて  
ほしいのです

## ススキと君と

---

晩秋の黄昏時って好きな人が結構いらっしやいます。  
ススキで少しばかり有名な曽爾高原・・・夕日の沈む  
シチュエーションでのK i s sなんて・・・  
ロマンチックすぎて夢の中にいるようです。

ー ススキと君と ー

自然に手をにぎりあって  
背丈もあるススキの間を  
通り過ぎて行く

夕日がきれいで  
眺望のいい場所を求め  
小高い丘をのぼっていく

二人の息も弾んで  
微笑みあう

夕日が顔を赤く染め  
どちらからともなく  
抱き合ってしまった

## 苦あれば薬あり

---

ー 苦あれば楽ありー

気分が優れない  
呼吸も満足にできない  
走ることは・・・もう出来ない  
酸素ポンベを引張って  
歩くことも考えねば・・・  
五体満足でない状態

日々が息苦しさとの戦い  
・・・そうなのです  
この状態を耐える力  
・・・そうなんです  
好きな女性との  
語らい・・・

恋？することって  
生きる勇気を  
与えてくれるのです  
ああ～  
苦あれば楽あり・・・ですね

## 少年の頃は

---

— 少年の頃は —

小さい頃よく遊んだ場所は  
もっと広いと思ってた  
せまい・・・よくもまあ  
こんなところで

少年の頃は  
もう・・・めちゃくちゃ  
・・・したい放題

宿題なんかは  
当然しないし  
忘れてきたと  
家に取りに帰ってから  
あわてて始める始末

言い訳は・・・  
どうしたんだろう  
思い出せない

大人になれば  
誰も同じようなものか  
一人前のような顔をしてる  
何故か声をあげて  
笑ってしまった



## 返事がきました

---

ー返事がきましたー

些細なことでも  
好きな人からの  
メールが届くと  
嬉しいもの

お愛想でも  
写メールだと  
すごく嬉しい

そうそう・・・  
好きなあなたへは  
こんな写真がピッタリ

明日は・・・  
あなたの好きな  
詩を贈ることに  
します

## 夕日のなかで

---

小春日和・・・こんなとき朝晩は肌寒いんですが？  
昼時に照準を合わせて春らしいファッションで  
お出かけする女性を見かけました。

・・・薄手の淡いピンク色のミニのスカートが歩く  
たびに軽やかに揺れて・・・

いい感じですよ。えっ・・・！？！・・・もう春が  
来ちゃったの???

ホントは！スカートのなかには毛糸のパンツだった  
りして・・・と余計な心配をするのは僕のような  
ヤバイおじさんだったりして（笑）

詩人を精いっぱい演出中の売れない詩人：飛鳥圭  
さんらしいって（笑）

この季節・・・落葉を歩道に敷きつめたような緑地  
公園を歩くと”ざくざく、パリパリ、パシパシ、ざっざっ”  
と耳に心地よい音が後ろから響いてきます。

そして燃ゆる夕空の・・・何とも郷愁をそそる風景  
に感無量！！

本当に一人で歩くには勿体ない風情です。

ー夕日のなかでー

燃える夕日・・・  
背に遠くの陽の暖かさが  
伝わってくる

真夏と違って  
まるやかな  
つつましい暖かさ

真冬だと  
少しもどかしい  
陽が落ちる刻だから  
仕方がないのか  
・・・でもこの暖かさは  
何故か懐かしい

夕げの準備をしてる  
・ ・ 母の愛のような  
そんな気がするの  
は僕だけなのか

## 明日はいいあした

---

－明日はいいあした－

小さな出来事で気まづくなって  
ささいなことで別れてしまうことなく  
確かな愛を探しておこうよ

二人で作った思い出は  
二人の胸にしっかり包んで  
明日からの思い出を重ねて行こう

今日という日は一度だけなんだ  
今のこの時間を大切に  
二人して同じ時を過ごそうよ

明日はまた  
小さい出来事だろうけど  
大きな夢が叶うこともあるでしょう  
明日は・・・きっといい明日さ

## X'M a s プレゼント

---

明日は・・・クリスマスイブ・・・大好きな女性に  
今年はいろいろとお世話になったことで・・・！！  
心ばかりの気持ちを届けたくって・・・  
・・・真冬なのに桜色の春を感じる小物のアイテム  
ニットの帽子とマフラー・・・それとスカーフ  
気に入ってもらえると・・・ほんと？うれしいです。  
じつは次のような希望と妄想が交錯しちゃって  
います。

・・・また、妄想の世界を彷徨っているのですね？

気持ちばかりなんですけど・・・お返しにK i s sして  
いただきました。

ああ～・・・こんなこと

・・・ああ～シアワセです（笑）

これって妄想の世界・・・えっ・・・現実なんだ？

圭さん1年間思い続けた甲斐がありましたね！！

好きな女性にK i s sされて・・・長生きしてくださいね？

そうなんです・・・ほんと！

今まで生きていて良かった・・・！。

ほんとに会えるだけでも元気をもらえるのに・・・

新しい年はいいことが有りそうです・・・いやいや

好きな女性のX'M a s プレゼント・・・よかったですね？

ーX'M a s プレゼントー

ホントのプレゼント

それはあなたの・・・

・・・やさしい気持ち

今一番欲しいもの

眼をつぶって

・・・あなたの気配

そっと・・・K i s sして

抱きしめたら  
胸が喜びで  
大きくふくらんで  
宙に彷徨うようです

クリスマスプレゼント  
やはり・・・  
好きなあなたと  
一緒にいること  
今日はありがとう

## 君ありし日に

---

冬至を過ぎクリスマスのこの時になると  
何故か人恋しくなり・・・妄想の世界を  
さまようことに・・・??

ああ～なつかしき日々  
ありし日の出来事が突然に浮んでくるのです。  
皆さんもこんなことってありませんか？  
圭さんだけだよ・・・妄想とお友達なのは！！  
気心の分かる親しい友人達って・・・いいもの  
ですね

—君ありし日に—

ふるさとの野山に  
二人して歩いた  
・・・少し肌寒い  
初冬の朝

君は身体がふるえて  
寒いと言った  
そっと抱き寄せると  
軽い・・・  
何て軽いんだ

僕の胸の中で  
君の鼓動が・・・  
聞こえてくる

遥か彼方の  
出来事なのに  
君のありし日の  
想いが  
今になっても  
伝わってくるのです

## 君のいる世界へ

---

いつまでも・・・  
いつまでもいつまでも  
私の心の中に  
あなたがいるのです

人を愛し・・・人を想い  
いつまでもいつまでも  
在りし日のことを思い続ける人間がいても  
良いのではないかと思っているのです

### －君のいる世界へ－

生きていて欲しかった  
君がいればよかった  
あの時のままで  
変わっていませんか

君のいる世界へは  
行くことができないのに  
この世界にもどれなくても  
一度は行ってみたい

伝えておきたいことがあります  
今・・・話しておきたいことがある  
遥か彼方の君のいる場所へ  
雲に乗って行ってみたいのです



## 懐かしいこと

---

－懐かしいこと－

秋になると  
決まって  
懐かしい  
出来事が・・・  
自然と現われます

そうなんです  
小学生の頃・・・  
初めての洋画  
シエーン・・・

シエーンって・・・  
叫んでみたくなる

今でも・・・  
理由なく  
叫びたく  
なりますが・・・

叫ぶってことで  
心のなかが  
すっきりしませんか

懐かしいこと  
思い出したら  
今度は・・・  
本当に叫んでみよう  
シエーンって？

# ファイト

---

ーファイトー

自己への気合  
頑張る意欲  
何事も・・・  
戦う意欲が欲しい

何かの  
キッカケが  
自身を励まし  
戦いに駆りてたてる

仕事であれ  
恋であれ  
スポーツであれ

自己への挑戦  
それは・・・  
自分を守る  
鎧でもある

F i g h t  
ファイト  
気合を入れて  
前に・・・進もう

## なつかしい響き

---

はるかな昔・・・

いつもは近くの公園で・・・近所の  
連中と軟式のテニスボールと  
竹製のバットで、三角ベースの野球  
に夢中になっている時間である。

そして夕陽が沈む頃には・・・

ごはんですよ～って  
母からお呼びがかかる。

今思い出してみると・・・ホントに  
懐かしいのあの頃である・・・（笑）

帰省の時はもう一度通ってみたい。

そのときは大好きなババでと思ってる

ーなつかしい響きー

草刈の・・・

エンジンの音

ウーン・・・

ウーンと

礼拝の朝

説教の声も

少し妨げられつつ

音は鳴り止まぬ

公園の草刈

数人で行う

共同作業であろう

大きい声が

飛び交い

いつものような

子供達の声ならず

甲高い大人の声

収穫時期に  
農道を通りすぎた  
昔の頃の脱穀風景を  
思い出すのです

## 黄昏のなかで

---

t w i l i g h t : トワイライト・・・たそがれ  
初秋のこの時・・・。  
黄昏って・・・僕にとって憧れの時間です！  
この時は・・・何故か郷愁をそそります。  
そして・・・淡い恋に似た気持ちになるのです。

－黄昏のなかで－

夕暮れの  
薄暗い時間・・・  
顔がはっきりしない

夕陽に輝く時は  
過ぎて・・・今  
君と二人きり

この時にしかない  
・・・素敵な次元

黄昏が二人を  
静かに包んで

愛する時間を  
作ってくれる

もう誰にも  
渡したくない  
そんな気にさせる  
黄昏の中

僕は甘い香りの  
・・・君の胸を  
抱きしめて  
いるのです

## 記憶って

---

—記憶って—

昔の記憶って

実際は・・・

スケールが小さい

距離にしたって

道幅にしたって

時間にしたって

遠かったは

近かった

長かったは

短かった

長い時間も

実は短いもの

でも・・・

記憶の中の

思い出は

いつも

ステキで・・・

中味がつまってる

## さざんか

---

—さざんか—

花の少ない  
晩秋に顔を出す  
さざんか・・・

人恋しいときに  
綺麗な花を  
咲かせ  
和ませてくれる

そして  
初冬になっても  
元気に  
咲くのです

少し咲いた頃  
・・・1階から  
眺めて  
知っていた

でも・・・  
2階では  
一斉に咲いた  
さざんかが  
声をかけるのです

さざんかの  
花の香りに  
気づいたとき  
僕は・・・  
大好きな人の  
瞳を想うのです

## 秋の朝

---

－秋の朝－

冬も  
まじかに迫った  
朝の光

陽光の差し込む  
和室や階段なりや  
何処も彼処も（どこもかしこも）  
明るくって

ドアを開けると  
眩しい花の・・・  
うすい紅色の輝き  
そして小鳥のさえずり

まもなく陽光は  
我が家を包み込む  
明日への希望を  
満たすかのように

庭の朝露は  
陽光にも増して  
きらきらと輝き  
今日の幸せを  
約束してくれる

この地での朝（あした）  
濡れてる路面が輝く  
愛する町並み

嗚呼・・・  
躍動する空気が  
胸の高鳴りとともに  
辺り一面に



弾けるのです

## 最悪って

---

ー最悪ってー

歯が治ったと思ったら  
今度は違う歯の  
治療が始まる

二度あることって  
三度ある・・・

忙しい時に限って  
道が混んでいる

お金のないときに  
いろいろと出費が

暇な時に限って  
何の連絡もない

難しい問題を  
解こうとすると  
次のページに  
答えがある

ホースを長く  
延ばして  
水を出そうと  
すると決まって  
ホースが抜ける

自販機を探すほど  
見つからない  
ことが多い

これって・・・  
マーフィーの法則！

## 明日という日

---

ー明日という日ー

今までのものに  
少し手を加える

チョットの変化で  
気分が変わる

そんなことって  
簡単なことで  
出来てしまう

髪の毛を  
切るように

ウィッグを  
付けるように

携帯電話の  
ストラップを  
変えてみる

財布を  
変えてみる

心がルンルンと  
楽しい気分

明日という日は  
きっと・・・  
気分がいいはず

今から・・・  
出来ることから  
変えてみよっ

## 探しもの

---

－探しもの－

つまらない物は  
なくてもいいのに  
ちゃんと保管してる

なんだろう  
この不合理は

必要な物なのに  
行方不明だなんて  
気にかかる物こそ  
見つからない

自分で片付けた  
・ ・ 筈なのに

餅つき機だって  
そうなんだ  
見たことはあっても  
何処に置いたか

使う時期が  
終わってから  
見つかったりして

でも探し物って  
宝物を探してる  
気がして

見つかるものなら  
ルンルンの  
大騒ぎだよ

1, 2, 3, 4つと

---

ー 1, 2, 3, 4つとー

1, 2, 3, 4・・・

5, 6, 7, 8・・・

大きく深呼吸して

息を吐いてえ

2, 2, 3, 4・・・

太陽を忘れても

光は注がれます

雨を忘れても

雨水は木々に

潤いを与えます

自然の恵みは

つつい忘れがち

でも・・・

いつまでもいつまでも

私たちに活力を

与えてくれるのです

## 寒いさむい

---

—寒いさむい—

いつも寒い寒いと  
言っていると  
・ ・ 本当に  
心まで寒くなる

寒風を  
もろともせず  
・ ・ 颯爽と  
歩いていた

そんな昔の  
ことが懐かしく  
思うこの頃

・ ・ 今は  
ストーブの前から  
動こうとしない

この暖かさは  
半端じゃない

焚き火なんかは  
今では遠い昔

そして  
焚き火にあたって  
通学したあの頃を  
思い出してしまう

## 北風

---

—北風—

北風が  
木々を揺らし  
雨戸が  
風にたたかれ  
音を出す

ヒューヒュー  
と風の音  
ガタガタと  
雨戸の音

いつもながら  
この冬の  
夜の情景・・・

しんしんとして  
夜は更けて  
音は果てしなく  
続いている

眠りたい  
寝かせない  
いたちごっこも  
いつしか終わり

ベビーアソビの  
心地よさに  
ふっと  
寝入ってしまう  
北風の吹く  
寒い冬の夜

## 冬の風

---

— 冬の風 —

冬の風は  
霜や雪にふれた  
冷たさ・・・  
木々を通りぬけた  
氷のような空気・・・

冬の風は  
樹木をざわめきさせ  
天国からの  
父母の呼ぶ声に  
変える

そして  
遥か昔のことを  
思い出させ  
それを鏡に  
映し出す

冬の風は  
神の許しを得た  
厳しい風のように

弱き者には  
励ましと  
強くなれる  
試練を課す

冬を乗り越えれば  
強き者に変わり  
希望の春へ  
導いてくれる

冬の風・・・



それは愛しき  
家族からのメッセージ  
なのかも知れません



## 夢の中へ

---

ー夢の中へー

大好きな・・・  
人のことを

いつも・・・  
思い描いてると

夢の中で  
現れるってこと  
知りませんか

枕の下に  
好きな人の  
写真を  
入れておくと

さらに・・・  
効果は  
テキメン

じつは・・・  
本当でしたよ  
でも肝心なところで  
目が覚めちゃうんです

だから・・・  
今日も夢の中に  
行ってきますよ

## 髪を束ねて

---

—髪を束ねて—

男の長い髪

そのままじゃなく

後ろに束ねて

ポニーテール

そして

キャンバスや

イーゼルを持って

そうそう・・・

画家のように

男の長い髪

後ろに束ねると

写真家？

陶芸家？

ミュージシャン！

肥っていても

スリムでも

何故だか

芸術家のような

不思議な気分

## 春のうた

---

－春のうた－

春の陽射しは  
穏やかで  
真綿に  
くるまってるよう

寒い冬の  
冷たい名残は  
消えて・・・  
しまいそうで  
少し淋しい  
気がします

窓際の  
太陽の輝きは  
春を待ち望んだ  
人々には・・・  
極楽のスペース

そして  
今日も・・・  
春のうたを  
口ずさんで  
いるのですよ

—春にむかって—

春にむかって  
あなたへの想いを  
暖めています  
冬の風は・・・  
あなたとの愛を  
育んでくれる

そして・・・  
暖かい春の風が  
菜の花の香りを  
運ぶ頃になると  
あなたとの恋を  
夢見ってしまうのです

## あなたの瞳に僕がいる

---

ああー？恋しきむかし

忘れ得ぬ人々・・・

去りし日々が走馬灯のように駆け巡り、大きな  
うねりとなって現実と過去の狭間の中を動きだす。  
こうなれば、今までの思考が止り宇宙空間をさまよっているような放心状態  
・・・になってしまうのです。  
時間にして数分であろうか！時代の波のなかに私はいる・・・確かにそうだ

—あなたの瞳に僕がいる—

あなたの瞳に僕が映っている

・・・あなたの瞳が輝いている

僕の瞳もあなたの中で輝いている

・・・想いが届いたのですね

瞳が動いている

・・・僕の瞳も動いている

僕の瞳の中にもあなたがいるのですね

・・・二つの瞳がかさなりました

いまから・・・愛がはじまるのですね

## 野原にて

---

僕は過去に戻って空想の世界に彷徨うことがよくあります。  
未来や明日のことは大切ですが、忘れ得ぬシーンは過去に  
もどらないと探すことが出来ません。  
過去に立ち止まることで、当然思い出したくない悲しい別れも  
ある訳ですが・・・僕の場合はpositiveに考えることにしました。

過去と遊ぶための僕なりの方法です。

・・・楽しい出来事や心が通う場面が鮮明に現れてあの時、その  
時のシーンが創造の世界として広がってゆくのです。

### ー野原にてー

名前も知らない・・・  
黄色い野花在咲いている  
・・・堤の野原にきています  
君とふたりっきり  
二人の想いは同じ  
・・・言葉もいらない

胸のポケットに・・・  
黄色い花を挿してあげました  
・・・僕からのプレゼントです  
君は髪を後ろに束ねて・・・  
微笑んでくれました  
・・・君を愛してよかった



## あなたの手

---

街角のある喫茶店で・・・おつりをいただくときです。  
レジの女性の手が私の手を包んでくれたのです。  
・・・落とさないよう気を配ってくれたのでしょうか！  
昔の遠い記憶の中から・・・あなたの手の温もり  
が伝わってきました。

### —あなたの手—

あなたの手を初めてにぎった  
柔らかくって・・・  
ほんのりとした暖かさが  
・・・伝わってきます  
寒くって冷たい季節なのに  
やさしい心が  
私の胸のなかに届きました

形で何かを残したい・・・。

書籍（紙の本）を出版する方が増えています。

出版物等による自己表現に勝るものはありませんが、今の時代を反映した手法によって表現できる様々なものがあります。

・・・この意味で電子書籍もひとつの手段と言えるでしょう！

僕も電子書籍を利用させていただいています。

－はじらい－

突然・・・おでこにキスをした

僕の仕草に・・・

あなたは微笑んで

うつむいてしまった

ささやくような声で

もう一度・・・

はじめからネ・・・と

じっとみつめて君が言った

・・・夢の中のふたりです

## そして明日

---

今日があるように・・・明日があります。

明日は今日より一歩でも前に進んでいることでしょう

ロッククライミングをするように一歩一歩踏み出してみましよう！！

一日一日が無意味に過ぎ去ってゆくこともあるでしょうけれども・・・今日の糧が明日の栄養となって私たちを成長させてくれます。

何かを始めることに意味があるのではないのでしょうか

ーそして明日ー

10年後に再会しよう

・・・約束したよね

覚えていますか・・・私のこと

あれから、もう10年がきました

いまでも・・・

あの頃と気持ちは変わっていません

そして明日・・・

あなたに会えるのですね

あの頃の・・・語らいが

あなたの笑顔が浮かんできます

いま・・・あなたに会いに行きます

## かぜの彼方へ

---

僕は度々現実から離れて？  
空想と夢のなかを彷徨うでしょう。  
Ahー今日も・・・空想と夢のなかに来ています。  
そうなのです・・・今、風の彼方にいます。

### ーかぜの彼方へー

かぜの彼方へ行かれましたか  
・・・とても遠く、ながく長い道のりです  
何十万里・・・いや何百万里！  
でも・・・いろいろなことを教えてくれます  
かぜの彼方に行ってみたい

僕は行ってきました  
凄く速い風に乗っけてもらって  
かぜの彼方へ行く途中・・・  
恋のはなしや、彼方のようす、いろんな  
お店など・・・  
いろいろな話しをしてくれました  
・・・楽しくてやさしい風です

今年は風が主役になって・・・  
たくさんの幸せを運ぶようですよ  
僕の場合はありし日の妻に会えるようです  
いつかは教えてくれませんでした  
楽しみになさいと言われました  
その日が来たなら・・・  
かぜの彼方へ会いに行くでしょう

### －風の詩－

初夏の風は新緑を含んでいて  
さわやかで好きです  
薄地で長袖のボタンダウンのシャツが  
風にそよいで・・・

ほっぺには甘い香りを伝えてくれます  
風からのメッセージがあるのも  
楽しいですよ・・・La La La  
すてきな出会いがありましたか！

素敵な恋が始まりますよ・・・  
正直に告白しちゃいましょう・・・  
初夏の風はこころまで  
愉快にするのです・・・ラ ラ ラ

## 風は僕からの愛

---

ー風は僕からの愛ー

風は僕からの愛・・・  
愛しいあなたへ  
そっと私の心を伝えます

誰もが一度は通ったであろう  
青春と言う名の想いでの道を  
君とふたりで・・・  
歩いてみたいのです

僕の誕生日を記念して  
今、一番大好きで  
大切な女性・・・

誕生日を祝ってくれた君に  
・・・感謝の気持ちと  
僕からの愛の詩を贈ります

2015年8月15日を過ぎた頃・・・知人から9条の会報061をいただいたのです。そこには戦後70年、「私の戦争体験：二度と戦争をしないために」の投稿記事がありました。要約して淡々と語られている中に・・・ドラマや映画などで見たあの悲惨な出来事が目の当たりに思い出されるのです・・・。

実は・・・読まなきゃって和室の座卓の所に置いたままになっていて、既に読んだものと勘違いしてたのでしたほんとに申し訳ありません。

この詩集に掲載させていただき、平和希求のお手伝いが出来ればと思うのです。

2018.8.1 飛鳥 圭

-----  
私の戦争体験「二度と戦争をしないために」

### 1. 引揚体験

私は満州ハルビン市からの引揚者です。1935年9月生まれ、今年80歳になる私は当時まだ9歳でした。1945年8月9日のソ連の空襲から、植民地満州での日本人の生活は一変することになりました。

ソ連国境に接しているハルビンの日本人は戦禍を逃れて一時避難する事になり、その3日前から1週間入営訓練に出かけた中学1年生の兄の帰宅を待つことも許されず、父母とともにハルビン駅から貨車に乗せられ、それから1年余りの避難民生活の後、1946年8月31日軍用船で舞鶴港に帰着、大阪の長柄橋の袂に建てられた引揚者住宅に一旦落ち着きました。

日本の小学5年生に仲間入りしたのは10月になってからでした。ハルビンの日本人が避難した後、空っぽの日本人街に帰された兄達中学生は、12歳の坊主頭を寄せ合って、「ソ連の捕虜になるくらいなら自決しよう」と話し合い、情報を求めて陸軍連隊本部に行き、撤収前の最後の軍用列車に同乗を許されて自死を免れたのでした。

私達に終戦（敗戦）が知らされたのは8月16日、一時避難の行き先が「ハルビン」から変更され、理由不明の停車が繰り返され、豪雨の夜を貨車の下で線路枕に震えて過ごした貨車の旅の5日目、途中下車として降ろされた「スウ（妥化）」という駅でした。

同時に着いた数千人のハルビンの人達はこの時から敗戦国の帰国難民となり、陸軍が使っていた飛行機の格納庫に収容され、摘み草の上にアンパラ（コリアンの皮の筵）を敷いて畳2枚位が1家族の寝所となりました。

そこで撤退する日本軍の列車で追いついた兄と再会できたのは全く不思議な

幸運でした。

格納庫での1ヶ月間は、たまに入手できた米を洗面器で炊き、満人が売りに来るポ-ミントウ(コ-リヤンの粉の焼き饅頭)と少量の乾パン、食べられる雑草で飢えを凌ぐ日々で、時には一日の食事が胡瓜(茶色く子どもの腕ほどの太さ)3本だけの日もあり、溝を掘っただけの仮設便所が赤痢や腸チフスなど伝染病を蔓延させ、9月の底冷えが一層体力を奪う中で、命終を迎えた肉親を囲む悲しい家族の風景が続きました。

「新京(長春)」の満鉄社宅の空き部屋に移ったのは9月半ばでした。

8畳間に2家族7人で11ヶ月間、帰国待ちの日本人難民のその日暮らしが続き、秋から冬に変わる季節の中で胸を患った兄に代わって母と私が満人街でタバコを仕入れ、母は難民街の仮設市場で店を出し、10歳になった私は机の引き出しを頸から下げて零下40℃の凍てつく早朝からたばこ売りの少女となりました。

見通しのないまま春が過ぎて初夏になり漸くして帰国の情報が入り、既に5歳を過ぎた父がリヤカ-を借りて空き瓶回収をはじめ、私はそれを手伝いました。国が敗れ警察も裁判所のない中で弁護士稼業ができるはずも無く、日本に持ち帰れる一人千円の所持金を貯めるための慣れない肉体労働は、栄養失調の父子にとっては厳しいものでした。

地道の滑りやすい坂道があり、空き瓶で一杯になった重いリヤカ-を、上り坂は私が梶棒を引いて父が押し、下り坂では滑り落ちないように父が梶棒を胸で支えながら進み、私がブレーキ代わりに後ろに付く。

7月の炎天下で汗が目に入り何度も転び、それは汗と涙と血みどろの行軍のようでした。

## 2. 戦争体験の反省にたって

私たちは、親子4人全員帰国できたのですからまだ幸運でした。警察署長だった同級生の父親は銃殺され、ファミで隣家だった同級生Tさん一家6人家族は、父親は徴兵され、病気療養中だった姉さんはファミ駅で出発前に息を引き取り、私の遊び仲間だった3年生のIちゃんの6年生だったその兄も学齢前の弟も、子ども達もみんな満州の土となり、母親一人の帰国でした。

父母の口癖は「この子達に何とか日本の土を踏ませること」でした。

寒い雪の朝たばこ売りから帰りつき、そのまま高熱で倒れてしまったことがあり、発疹チフスでした。

気が付くと「こんな幼い子を働かせて済まない！」と涙する父の姿があり、かじかんだ手に息を吹きかけながら「ごめんね、ごめんね」と繰り返し、ひび割れた手と涙で暖めてくれた母がいました。



子供にとって親の喜ぶことなら「寒い、冷たい、ひもじい・・・」などは何でもなく耐えられたのですが、後に大人になってみると、親の耐え難い苦悩が解り、思い出すたびに涙と怒りがこみ上げてきます。

「12歳の子に自決を覚悟させる」、「子供に食べられる雑草を探させる」そんな時代の再来を決して許してはいけない、戦争は、自国と他国の人を問わず「人権と自由の侵害」であり、幸福な人間の暮らしを破壊する人間社会最大の悪事です。戦後生まれの人達、目くるめく機械文明に浸り技術革新に目を奪われて騙されがちな若者達に、戦争体験とそこに誘導され、騙された数々の嘘を、それを見抜く力を添えて伝えることが私達の最大の義務だと思います。

大阪で教職に就き、職場の同僚から「大阪の空襲で伯母が黄燐爆弾で腕をやられ、火を消そうと川に飛び込んだが、水から出したら腕がまた燃え続けるんだ。淀川は死体の海だった」と聞かされ、空襲の悲惨と恐怖を知らずに済んだ引揚者の私に戦争体験など語るほどのものはないと思い、引揚体験を話すことはめったに無かったのです。

しかし今戦争の足音が日に日に大きくなり、嘗ての戦犯やその利権で財を成した財閥の後裔たちが進軍ラッパをならすような事態になっていることを思うと、自分がその体験の一部を背負ってきた20世紀日本に帝国主義戦争が誰に利権をもたらし、誰が不利益を押しつけられ見捨てられたのか。

戦争がもたらした不幸や悲惨な事実を様々な局面で掘り起こし証明することが必要であり、日本の侵略や植民地で侵した犯罪的人権侵害に対するきちんとした謝罪と賠償は当然であり、過去の戦争の真実を、隠蔽も歪曲もせず直視する勇気とともに後世に伝えなければならないと思うのです。

fine

-----  
ご覧下さりありがとうございました。

## E p i l o g u e

---

### E p i l o g u e

詩集の表紙の写真、いつ見ても不思議なことであるが看護婦の女性から何かが語られてくるような雰囲気がある。一体何を語ろうとしてるのか？

国のため家族や恋人とも別れて戦地に赴いての看護活動、野戦病院の中ではないが緊張した当時の空気感が伝わってくる。そしてその胸中はどうだったのだろうか

天皇陛下の名の下に召集されて戦地の殺略のシーンにも遭遇してるかも知れない。あの日はまた・・・絶対来て欲しくないとの平和の願いを込めた詩がここにはあるだろう！平和があり、今もなお光に満ちていついつまでも私たちに輝いていることを願っている。最後に詩集発表の場を提供下さったP u b o o様、いろいろとお世話になった知人、友人や諸先輩の方々に感謝を申し上げる。

伊賀忍者の里が今なお残る町にて

2018年8月 飛鳥 圭

詩集 あの日はまた

<http://p.booklog.jp/book/122585>

著者：飛鳥圭

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/sanbika21/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/122585>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト